

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2022年8月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで60年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2023年6月初旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510
kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>

放送批評懇談会



2022年8月度ギャラクシー賞月間賞

土曜ドラマ「空白を満たしなさい」

6月25日～7月30日放送 22:00～22:49 日本放送協会 NHKエンタープライズ

自死の3年後に生き返った“復生者”の主人公が「自分が自殺なんかするはずがない」と、自らの人生と死を辿り直す。気楽に楽しめる内容ではないが、原作者、平野啓一郎の「人は“分人”から成っている」という考え方を反映した物語が、見事な脚本・演出と、柄本佑、鈴木杏、阿部サダヲらの名演によって、最後は深い感動に包まれるドラマになった。

NO WARプロジェクト つなぐ、つながるSP「戦争と嘘＝フェイク」

8月14日放送 14:00～15:54 TBSテレビ

毎年8月に戦争を振り返る番組が放送されるなかでも、いまロシアのウクライナ侵攻で起きていることと、先の大戦で日本が経験したことを対比しながら「フェイクニュース」をテーマに掘り下げているのが、今年らしい番組の作り方だった。「振り返るだけ」ではない切り口にするすることで、視聴者の興味や共感を得やすい内容になっていた。

NHKスペシャル「ビルマ 絶望の戦場」

8月15日放送 22:00～23:00 日本放送協会

3万人の戦死者を出し、太平洋戦争で最も無謀といわれたインパール作戦では、その後の撤退戦で、その数をはるかに上回る命が失われていた。とにかく、軍上層部の無責任さに呆れる。高齢になった関係者や数少ない記録、さらには現地での綿密な取材で、誠実に任務を果たす日本兵を見殺しにする指揮官の責任放棄が見事に浮き彫りになった。

プレミアムドラマ「拾われた男」

6月26日～8月28日放送 22:00～22:45 日本放送協会 ウォルト・ディズニー・ジャパン NHKエンタープライズ

俳優・松尾諭の自伝のドラマ化で、松尾という素材の面白さもあるが、虚実が入り混じる構成と丁寧な演出に加えて、仲野太賀、草彅剛、伊藤沙莉らの好演によって面白く、かつしみじみと心に沁みるドラマとなった。この3人が出て面白くならないはずはないという期待に見事に応えてくれた。

★詳細は月刊誌「GALAC」2022年11月号に掲載します